



# 2022年3月期 決算説明資料

2022年 5月 12日

社会を変革する **I T イ ノ ベ ー タ**

当社は、2021年3月期については連結財務諸表を作成しておりません。  
そのため本資料において、過去数値との比較を行っている項目については、  
特段の記載がない限り単体の過去数値との対比になっておりますのでご了承ください。

**会社概要 事業内容**

**業績概要**

**S I Gグループ成長戦略と長期ビジョン**



2021年10月1日より持株会社体制となり、  
社名をS I Gグループと変更いたしました

## 経営理念

- 1** ITイノベーションにより社会の高度化に貢献する  
ITは社会をより便利な方向へ、より安全な方向へと変えながら皆さんを幸せにしていきます。S I GグループはそんなITイノベーションの先頭に立ちます。
- 2** 自己革新と研鑽により社会のニーズにこたえる  
ITの技術を真に社会に役立つものにするには安全で迅速で確実なシステムを構築する必要がありますし、これら高いレベルの要求を実現するために自己変革と先端技術の研鑽を実施しています。
- 3** 幅広く人材を受け入れプロフェッショナルとして育成する  
幅広い人材の育成は企業の使命であり、特に大切とするテーマです。私たちは育成・指導・話し合いを行うことでビジネスを常に前進させています。
- 4** 会社の発展と業績の拡大によって社員の幸福を目指す  
会社は社員みんなの夢を実現しつつ、事業を通して社会に貢献することが目標であり、その実現に向けて社員一人一人の力を集結させることが大切です。「Going All Together to SUCCESS」を合言葉に、挑戦していきます。

## 会社名

株式会社S I Gグループ

## 代表取締役社長

石川 純生

## 連結従業員数

428名（2022年3月末日時点）

## 設立

1991年12月16日

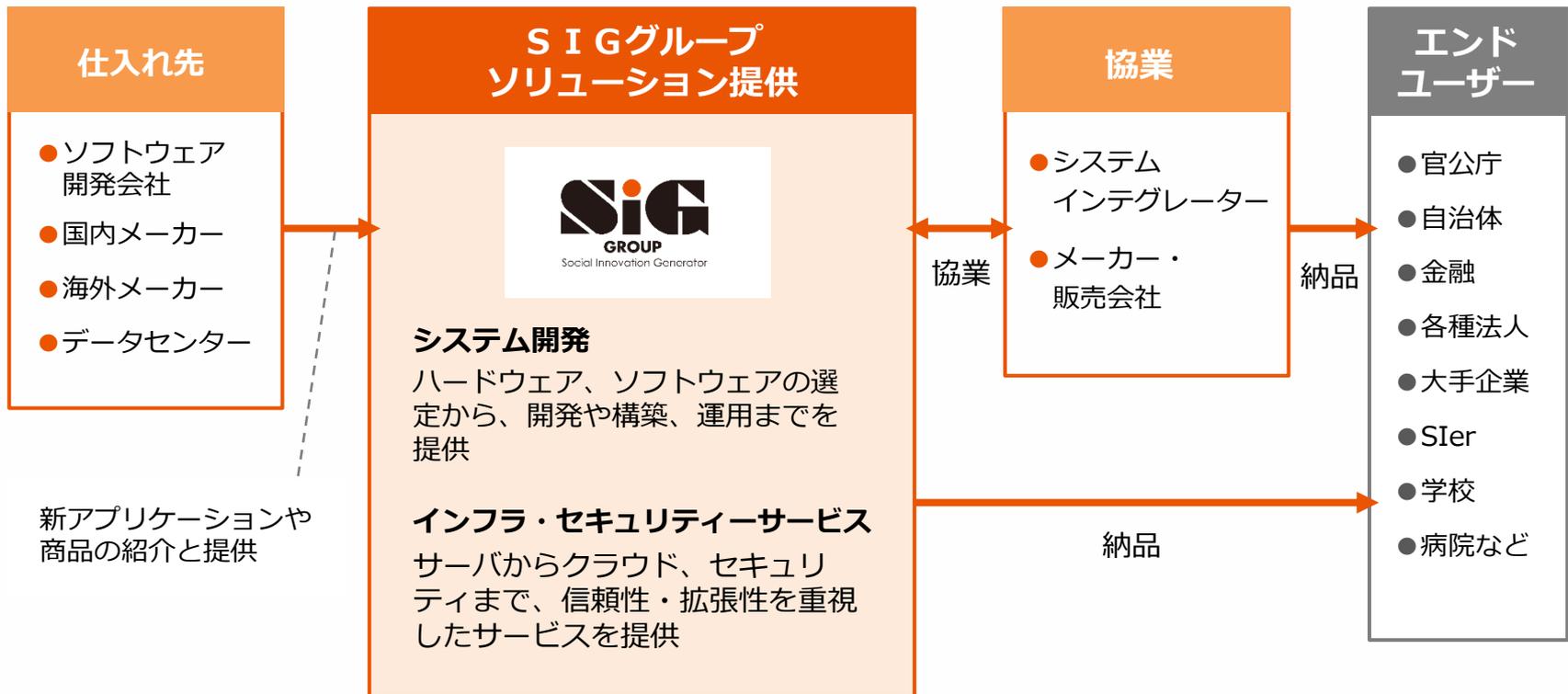
## グループ会社

株式会社S I G

株式会社Y. C. O.

株式会社アクロホールディングス

- 官公庁・上場企業のシステム開発から事業拡大し多数の実績とノウハウを獲得
- ソリューション提供を通して、多種・多様なシステムニーズに対応
- ユニークなシステム開発とクラウド化ソリューション提供のポジションを構築



## システム開発

最適なシステムとなるよう、業務内容や目的に応じた企画の提案、ハードウェア、ソフトウェアの選定、システムの開発や構築、運用までを提供

官公庁



エネルギー



通信



自動車



FA



## インフラ・セキュリティサービス

サーバからクラウド、セキュリティの設計から構築導入支援、運用管理まで信頼性・拡張性を重視したサービスを提供

証券オンライン  
システム構築



防災システム  
構築



クラウド/  
ビッグデータ



クラウド環境  
セキュリティ診断



指紋認証



# 業績概要

# 2022年3月期通期業績サマリー

- 半導体業界における旺盛な需要や、公共系のDX化推進関連のシステム開発により、業績は2021年11月修正の業績予想に対し、概ね計画通りの着地となりました。
- 各分野における業績は、製造系やサービス系を中心に好調に推移いたしました。
- 経常利益は販管費の増加等により計画をやや下回る結果となりましたが、前年に対しては増益となりました。

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期（連結）			
	通期実績	通期実績	前年同期比	達成率	修正通期計画 (2021年11月11日更新)
売上高	4,397	<b>4,916</b>	+11.8%	99.7%	4,930
営業利益	325	<b>378</b>	+16.3%	105.3%	359
営業利益率	7.4%	<b>7.7%</b>	-	-	7.3%
経常利益	321	<b>391</b>	+21.6%	97.9%	400
当期純利益	239	<b>274</b>	+14.4%	103.0%	266

## システム開発

前期実績： **33.4億円** → 当期実績： **37.2億円** （前年同期比+11.4%）

当期の売上高は、案件の縮小によりエネルギー系で計画値を下回りましたが、製造系を中心とした他分野の伸長により対前期比、対計画値ともに上回る着地となりました。

- 公共系 : 自治体のマイナンバー活用等のDX化推進に伴うシステムの標準化・共通化の需要増で通期で大きく伸長
- 製造系 : 運用保守系の案件による伸長のほか、コロナ過でのPC需要や電気自動車（EV）市場のニーズが高まり、電子部品実装装置を中心に業績が良く通期で大きく伸長
- サービス系 : コロナ対策としてのEC系開発・保守や、DX系ビジネスが通期で好調  
仮想移動体通信事業者向けの案件は請負案件を中心として堅調に推移
- セキュリティ系 : 通期を通して堅調に推移  
通信事業者向け案件へ、他分野のエンジニアをシフト
- エネルギー系 : 電力グループ向け大型案件の規模縮小などがあり計画を下回る

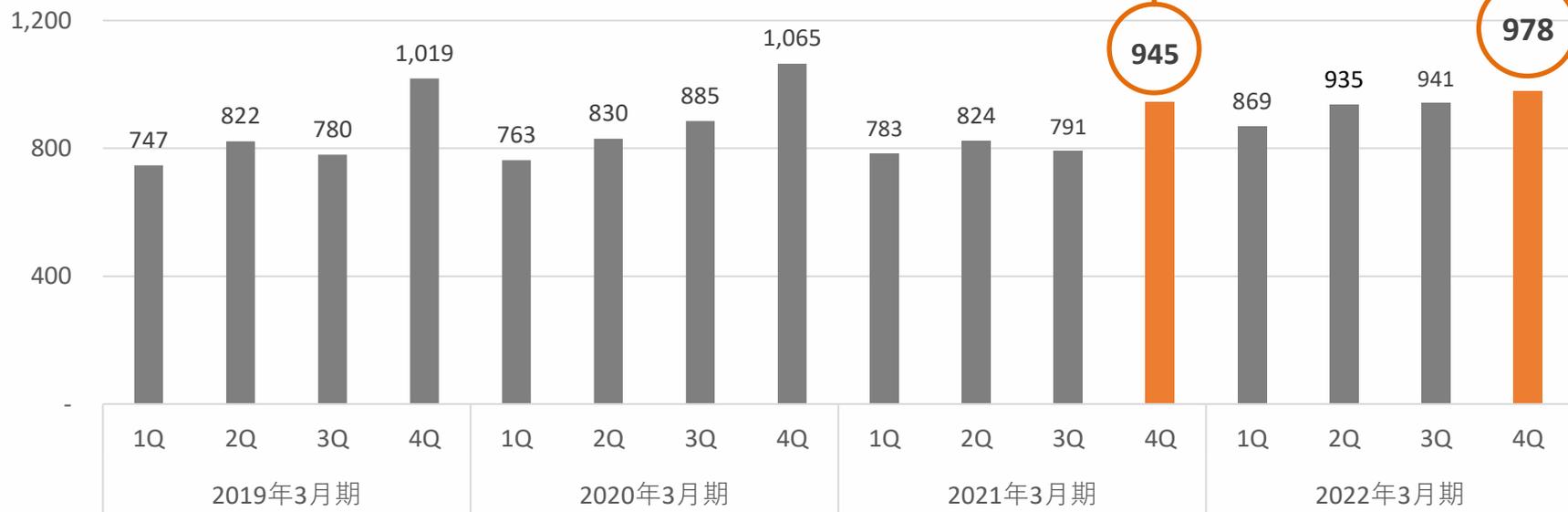
## システム開発

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	前年同期比
累計売上高	3,344	3,724	+11.4%

### 売上四半期推移

(単位：百万円)



## インフラ・セキュリティサービス

前期実績： **10.5億円** → 当期実績： **11.9億円** （前年同期比+13.2%）

当期の売上高は、金融系の一時的な案件縮小や、セキュリティ系の製品販売需要の縮小がありましたが、他分野では全般的に好調に推移し、対前期比、対計画値ともに大幅に上回る着地となりました。

- 公共系 : 主要となる防災および官公庁向けに加えて、オンプレからクラウドへの移行需要や、金融分野からの要員シフトにより大きく伸張
- 金融系 : 証券・銀行の主要顧客向け基盤構築案件が世代交代期に入り上流工程へシフトし、単価アップにより売上は対計画値を上回る
- サービス系 : 上期より着手していたBtoCネット販売サイト構築案件などの新規案件の受託やサーバリプレース・仮想化環境構築などのDX対応需要により、対前期比、対計画値ともに伸張
- セキュリティ系 : 他分野へのセキュリティに関するコンサルやソリューション提供に注力  
脆弱性診断業務は堅調に推移
- エネルギー系 : 軸となる情報システム部門の業務支援、基幹システムリプレースの請負案件のほかその他システムリソースの評価の請負案件の受注も重なり、分野別では対前期比、対計画値ともに最大の伸張

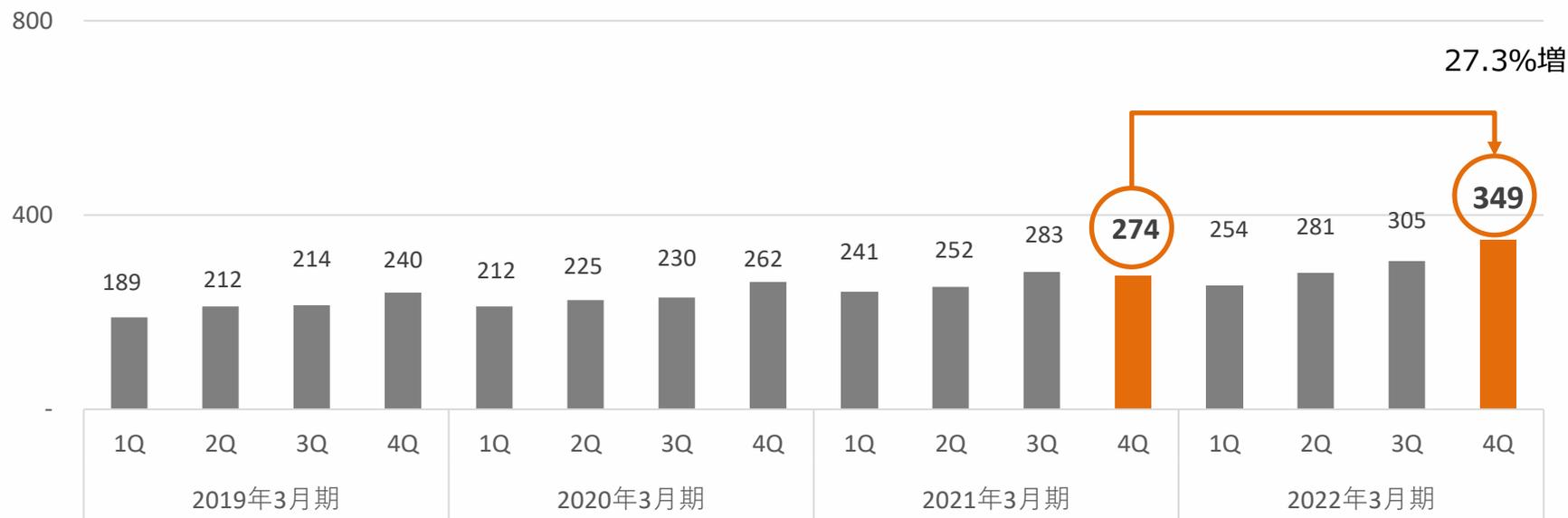
## インフラ・セキュリティサービス

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	前年同期比
累計売上高	1,052	1,191	+13.2%

### 売上四半期推移

(単位：百万円)



# 貸借対照表 (要約)

(単位：百万円)

	前年度末 実績	当期末 実績	前年度末比		主な要因
			増減額	増減率	
<b>資産合計</b>	<b>2,596</b>	<b>3,160</b>	<b>563</b>	<b>21.7%</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 流動資産</li> <li>・ 現預金 : 短期借入金の増加</li> </ul>
流動資産	1,669	2,001	331	19.8%	
現金及び預金	714	1,134	420		
売掛金	834	716	△118		
仕掛品	2	2			
その他	118	147	28		
固定資産	927	1,159	232	25.1%	
有形固定資産	68	152	84	124.2%	
無形固定資産	19	77	58	302.9%	
投資その他の資産	839	929	90	10.7%	
<b>負債合計</b>	<b>1,049</b>	<b>1,452</b>	<b>402</b>	<b>38.3%</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 流動負債</li> <li>・ 短期借入金の増加</li> </ul>
流動負債	738	1,136	397	53.9%	
固定負債	311	316	4	1.5%	
<b>純資産合計</b>	<b>1,547</b>	<b>1,708</b>	<b>161</b>	<b>10.4%</b>	
株主資本	1,547	1,688	141	9.2%	
<b>負債純資産合計</b>	<b>2,596</b>	<b>3,160</b>	<b>563</b>	<b>21.7%</b>	

# 損益計算書 (要約)

(単位：百万円)

	前期 実績	当期 実績	前年同期比		主な要因
			増減額	増減率	
<b>売上高</b>	<b>4,397</b>	<b>4,916</b>	<b>518</b>	<b>11.8%</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 営業利益</li> <li>・ 従業員数増加による受注案件数の増加による</li> </ul>
売上原価	3,353	3,760	406	12.1%	
<b>売上総利益</b>	<b>1,043</b>	<b>1,155</b>	<b>112</b>	<b>10.8%</b>	
販売費及び一般管理費	718	777	59	8.2%	
<b>営業利益</b>	<b>325</b>	<b>378</b>	<b>52</b>	<b>16.3%</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 営業外収益</li> <li>・ 確定消費税差額</li> </ul>
営業外収益合計	4	20	16		
持分法による投資利益	—	9	—		
営業外費用合計	7	7	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 営業外費用</li> <li>・ コミットメントフィー</li> </ul>
その他	7	7	0		
<b>経常利益</b>	<b>321</b>	<b>391</b>	<b>69</b>	<b>21.6%</b>	
特別損益	<b>0</b>	<b>5</b>	<b>5</b>		
<b>税金等調整前純利益</b>	<b>321</b>	<b>397</b>	<b>75</b>	<b>23.3%</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 法人税等</li> <li>・ 前期：所得拡大税制による減税</li> <li>・ 今期：該当なし</li> </ul>
法人税、住民税及び事業税	93	144	51		
法人税等調整額	△10	△21	△10		
<b>法人税等合計</b>	<b>82</b>	<b>122</b>	<b>40</b>		
<b>当期純利益</b>	<b>239</b>	<b>274</b>	<b>34</b>	<b>14.4%</b>	

2030年に向けた長期ビジョンによりAI・IoT事業推進ならびにクラウドおよびセキュリティ事業推進を今後の成長戦略として位置付けております。会社の成長・発展に向け、次世代の独自ソリューション開発を推進するソリューションセンターを強化し、地方拠点及びパートナー企業との関係を強化することで、売上増に結びつけてまいります。

2021年10月の持株会社体制への移行に伴い、社内共用部分の整備を行う予定です。また、リモートワークに対応したスタジオ設置やミーティングスペースを新しく設けるなど、販管費の増加を見込んでいます。

(単位：百万円)

	2022年3月期（連結）		2023年3月期（連結）	
	第2四半期 （累計） 実績	通期実績	第2四半期 （累計） 計画	通期計画
売上高	2,341	4,916	<b>2,645</b>	<b>5,544</b>
営業利益	137	378	<b>112</b>	<b>390</b>
営業利益率	5.9%	7.7%	<b>4.2%</b>	<b>7.0%</b>
経常利益	172	391	<b>129</b>	<b>420</b>
当期純利益	129	274	<b>89</b>	<b>290</b>

## システム開発

当期実績：37.2億円 → 来期計画：42.2億円（当期実績比+13.1%）

来期計画の売上高は、主要とする事業領域の既存事業の体制維持・拡大を軸に、サービス分野でのDX系開発案件の受注見込み等により増収を見込んでおります。

### 前期比プラス見込

- （公共） 自治体・共済系の開発支援を軸に、国保向けパッケージ開発支援への参入および自治体向け運用管理業務の移行・保守案件への参入  
人事給与システムの制度改正に対応した定時改修等により大幅プラスの見込
- （サービス） BtoBのECサイト構築からBtoCのECサイト構築への移行を図る  
仮想移動体通信事業者向けの支援体制および既存のテレマティクスサービス向けシステム開発を軸に、DX系開発の受注見込
- （新規分野） 基幹業務系パッケージの開発、販売および保守等

### 前期実績並み見込

- （セキュリティ） 通信事業者向けの案件継続を主体に前期同等の受注見込
- （エネルギー） 保守維持を中心とした既存案件の継承  
新規開発案件の開始で体制拡大の見込

## インフラ・セキュリティサービス

当期実績：11.9億円 → 来期計画：13.2億円（当期実績比+10.9%）

来期計画の売上高は、主要分野で支援体制の維持・拡大を継続することに加え、クラウドとセキュリティを融合した付加価値の高いソリューションを提供できる組織としてCSソリューションセンター機能を拡充してまいります。特に、地方拠点を含めた需要開拓とプロジェクト実施体制の強化により、コストパフォーマンスの高いワンストップサービスを提供する取り組みにより増収を見込んでおります。

### 前期比プラス見込

- |            |   |
|------------|---|
| （公共）       | 防災および官公庁向け支援体制を軸に、一部体制を公共系にシフトし強化   |
| （金融系・サービス） | オンプレミスを中心としたビジネスから、クラウドシフト需要増への対応を軸として体制強化  |
| （エネルギー）    | 当期末に体制強化した情報システム部門の支援体制をさらに強化することにより上流工程へのシフトおよび保守改良案件を安定確保   |
| （セキュリティ）   | 既存商材の整理と新たな商材拡充によるセキュリティ商材の販売を強化<br>クラウド事業と相乗効果が狙えるセキュリティソリューションを整備<br>全国規模での新たな顧客開拓を目的とした中小規模の需要にも対応できるワンストップサービスの強化 |

## 配当について

当社の配当政策は将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続して実施していくことを基本方針としております。

2022年3月期の期末配当金につきましては、6円の普通配当に加え、このたびの持株会社体制化を記念して、1株当たり5円の記念配当を実施することといたしました。これにより、1株当たりの年間配当金は、普通配当と合わせ合計17円となる予定です。

なお、2023年3月期の年間配当金は、業績予想等も加味して普通配当を増額し、年間13円とする計画です。

	2022年3月期	2023年3月期（予想）
1株当たり中間配当金	6.0円	6.5円
1株当たり期末配当金	11.0円	6.5円
年間配当金	17.0円	13.0円

# S I Gグループ成長戦略と長期ビジョン

- ITイノベーションにより社会の高度化に貢献する
- 自己革新と研鑽により社会のニーズにこたえる
- 幅広く人材を受け入れプロフェッショナルとして育成する
- 会社の発展と業績の拡大によって社員の幸福を目指す

## 経営理念

## ITトータルソリューションカンパニー 「企業の外部CIO\*として成長に貢献」

## 長期ビジョン ありたい姿

### 現状維持へのシステム構築 既存事業

顧客の所属する業界特有のニーズと仕様・用途を熟知するSIGグループができるソリューションを構築

### 事業成長へのシステム投資 新規事業

既存事業の業界知識を事業成長のソリューションへ活かす仕組みを構築

## 中期計画 課題と施策

## 第1フェーズは、SIGグループ文化の再評価から体制構築

第1フェーズ ~2024

第2フェーズ

~2027

第3フェーズ

~2030

文化の融合による  
ビジネスチャンスの拡大

### 「崖越え\*はSIGグループ」

- 大量のDX案件へ対応できる体制を作る
- 顧客に訴求できるソリューションの組成
- 売上：60億円

\*崖越えとは、「2025年の崖」に由来し、IT環境のシステム変換ニーズの高需要とその需要に対応する人材の不足を当社で多くを対応しようという試み

### ITトータルソリューションカンパニーへ

- バリューアップソリューションを既存顧客へ
- システム構築支援から事業成長支援企業へ
- 売上：170億円（既存60億、新規110億）

### 企業の外部CIOとして成長に貢献

- 国内：外部CIOとして企業成長に貢献
- 海外：国内実績を活かした事業支援を展開
- 売上：300億円（従業員2,000人体制）

### 顧客のビジネス変革（DX）を支援

得意領域の実績と  
新規事業の注力分野  
を融合させ、DX  
ソリューションを  
提案できる体制へ

持株会社として  
機能を活かして  
M&Aで機能強化

お互いの強みを活かす  
パートナー開発

#### 新規事業

##### 注力分野

スマートデバイス  
クラウド  
セキュリティ

#### 既存事業

##### 得意領域

公共 製造  
社会インフラ  
金融 拠点

アクロHD との  
協業

グローバル  
人材

## 「崖越えはSIGグループ」の体制を構築し、売上高60億円を達成

### 方針

- 事業体制強化と成長を勘案した数値目標を設定
- 事業執行の確実性とスピード化、ガバナンス強化のための持株会社化
- DX需要を確実に捉える体制を構築する

### 売上目標

(単位：百万円)

	2022年3月期 (実績)	2024年3月期
売上高	4,916	6,000
営業利益 (営業利益率)	376 (7.7%)	600 (10.0%)

### グループ体制 2022年3月31日現在

#### 持株会社

(株) SIGグループ

企業文化の形成

#### 事業会社

(株) SIG

スマートデバイス開発やクラウド、セキュリティ事業を強みに産学官のDX推進を支える

(株) Y. C. O.

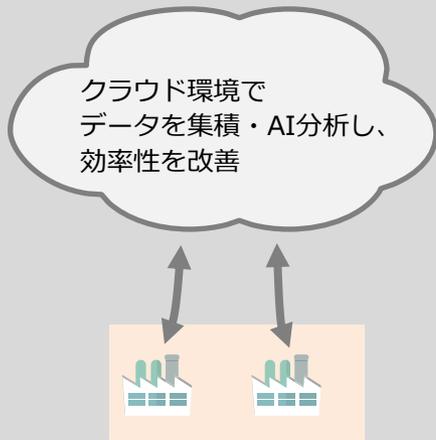
独立行政法人の管理業務等に特化した専門的な深い知識とノウハウを所有

(株) アクロホールディングス

個性豊かなIT企業グループの総合力でデジタル分野の全領域をカバー

## AI・IoT事業

製造現場の人手不足対策としてスマートファクトリー化を加速する企業の支援



### 実績

- IoTを利用した設備保全管理
- AI技術による生産性向上システム

## クラウド・セキュリティ事業

旧サーバーからのデータ移管に留まらず、クラウド上のデータ利活用・セキュリティに配慮した提案を実施

### クラウド化支援

- クラウドへのデータ移管業務
- データ分析・解析用の基板構築支援

### セキュリティサービス

- 脆弱性診断
- アプリケーション設定確認

### 保守サービス

- 運用状況確認サービス
- ミドルウェアのバージョンアップ

## ソリューションセンター

次世代の独自ソリューション開発を検討するプロジェクトを立上げ

各事業部から次世代事業を検討できる人材を結集

現状維持へのシステム投資：ラン・ザ・ビジネス

システムソリューション事業部

ICT事業部

西日本事業部

- スマートデバイスソリューションセンター
- CSソリューションセンター

新規事業

事業戦略室

新規事業推進部

事業成長へのシステム投資：バリュー・アップ

「スマートデバイスソリューションセンター」では、AI・IoT技術を活かしたソリューションを提供します

「CSソリューションセンター」は、クラウド及びセキュリティ事業に関してソリューションを提供の第一弾として「AWS安全化ソリューション」のセミナーを始動

## 各社の強みや特徴を活かし、企業間の課題を補完する関係へ

### 進捗

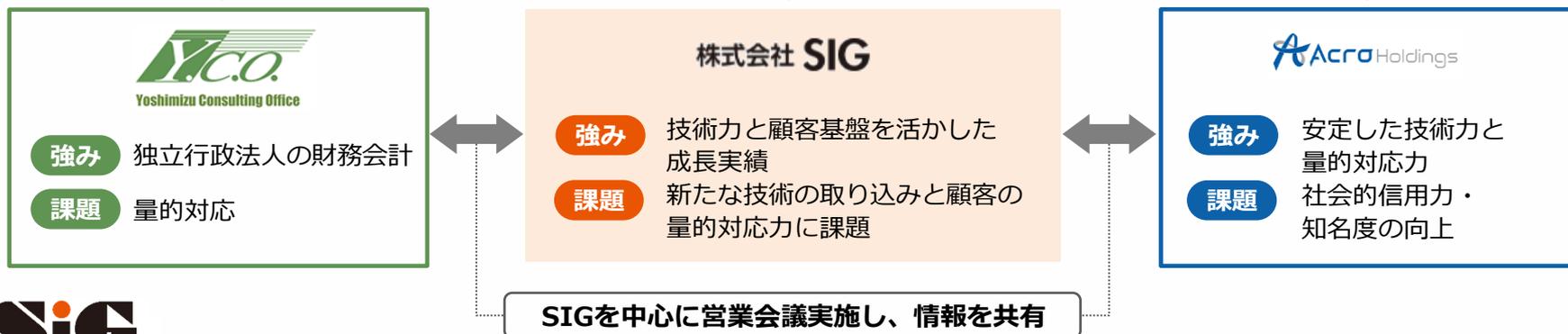
- 営業会議を中心にグループ各社の情報共有を実施
- 持株会社から人材を派遣し、コンプライアンスを強化
- 各社の事業基盤と強みを活かすグループ連携

### SIGグループ各社の役割



- 規模を取るため、優秀な人材・案件を持つ企業と提携
- 今後、各社の強みを結び付け新たなソリューション開発へ
- SIGグループとSIGがリードして企業文化を形成

### SIGグループより内部統制・コンプラ指導で体制強化



## ソリューション提案の開発基盤と拠点連携「酒田モデル」の構築

### 成果

- ソリューションを創造するセンターからソリューションを具現化するソリューショングループへ
- 同グループが新しいソリューション提案の開発を担当
- リモートワークの定着から拠点間連携「酒田モデル」を構築

### ソリューション開発基盤の一つが完成



- ソリューション開発グループ、CSソリューショングループで「AWS安全化ソリューション」を組成。今後も新ソリューションを開発
- ソリューションセンターは、引き続きAzureやセキュリティを検討。新組織の組成からソリューション開発を担当

### 酒田モデル



- コロナ渦でのリモートワークを前提とした「新しい働き方」
- SIGで技術を磨いたUターン、Iターン希望者による立上で、技術と連携強化
- これまで培ってきた、地域採用と教育の経験

早期収益化・DXで地域貢献

# ディスクレームー

本資料に記載された意見や予測などは資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。さまざまな要因により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

- 当資料に関するお問い合わせ

株式会社 S I G グループ

経営企画室 TEL 03-5213-4580 (代表)